

6月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

行った主な活動

■ 雨よけビニール修理作業

強風で破損した雨よけビニールの状態を圃場全体で確認し、安全確保の上で復旧した。垂れ下がったビニールの回収や張り直し、固定部の締め直しを実施し、再び風を受けないようたるみをなくして均等に固定した。あわせて、通路や樹体への接触を避け、防除や果房管理の妨げにならないよう処置した。



■ 笠掛け作業

果房の肥大状況と房形を確認し、雨や強い日差しから果実を守る笠掛け作業を実施した。汚れや日焼け、病害を防ぎ、今後の摘粒・袋掛けまで果房を健全に保つため、風で外れず果粒を傷めない位置へ一房ずつ確実に取り付けた。作業後は掛け忘れや固定不足がないか見回り、樹ごとの進捗を整理した。



6月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

活動を行った感想など

雨よけビニールの修理を通じ、わずかな緩みが強風時の大被害につながることを実感し、施設管理が果実の品質と作業継続を支える重要な栽培管理であると学んだ。広範囲を短時間で復旧する高所作業では、安全確認、人員の確保、作業順序の共有が不可欠であり、強風時は無理をしない判断も必要である。一方、笠掛け作業は房の向きや枝葉との位置関係を見極める必要があり、丁寧さと作業速度の両立が求められた。反省点として、修理時は資材準備と優先順位を事前に整理しておけば、より効率的に復旧できたと考える。

笠掛けについては、見落としを防ぐ目印の活用や確認方法の統一、作業者間の品質差をなくすための基準の共有が課題として残った。

今後は、作業前後の写真、使用資材、所要時間を詳細に記録するとともに、未修繕箇所や確認が必要な列を明確に管理することで、次のスムーズな段取りと安全性の改善へつなげていきたい。

今後の目標など

今後は、雨や強風後の速やかな点検と、小さな破損段階での早期補修を習慣化する。定期的な資材の在庫確認に加え、必要人数や手順、安全対策を事前に整理し、緊急時でもすぐ復旧作業へ移れる体制を整えたい。果房管理では、笠掛け後も果粒の肥大、傷、日焼け、笠のずれ等を継続観察し、摘粒や防除、袋掛けへ適期につなげる。作業完了列の記録と見回りを徹底し、抜け漏れを防ぐ。

また、施設管理と果房管理を個別の作業としてではなく、品質安定や病害予防につながる一連の栽培管理として捉え、指導農家さんの判断基準を学んでいく。自立就農時に再現できるよう、使用資材や時間、改善点を日誌に残す。日々の作業結果と果房の状態を比較・検証することで、経験を確かな判断力へと変え、天候変化にも柔軟かつ計画的に対応できる安定した栽培管理能力を身につけていきたい。

